

自己を見つめ、なりたい自分への思いや願いをもつ児童の育成

～道徳的価値の自覚を深めさせる特別の教科道徳の授業づくりを通して～

気仙沼市立小泉小学校

1 本校での取り組み

今年度より、特別の教科道徳を研究教科として授業づくりに取り組んでいる。次の三つの視点に焦点を当て実践を重ねてきた。

- (1) 道徳的価値に向き合わせるための指導過程の工夫
- (2) 道徳的価値の自覚を深めさせるための
対話的な学び合いの工夫
- (3) 自己の変容を見つめさせるための評価の工夫

11月には本校を会場として県小学校道徳教育研究大会が開催され、2年生と6年生が授業を公開した。

2 実践の概要

- (1) 道徳的価値に向き合わせるための指導過程の工夫
 - ・指導過程におけるねらいを次のように捉え、全学級による実践授業を通して検証してきた。
 - ・児童の発達段階に応じて、それぞれの段階で手立てを工夫して指導に当たった。

段階	ねらいと手立て(例)
出会う	本時で扱う価値についての問題意識をもたせる。 ・「志シート」を活用し、自分の考えを確認する。 ・簡単なゲームで価値に対する考えを確認する。
気付く	多様な価値観に触れさせることで、価値に対する考えを広めさせたり、深めさせたりする。 ・発問は基本発問、中心発問を合わせて三つ程度とし、基本発問で価値への道筋をつけ、中心発問については考えを書かせることで、価値との自己対話をさせる。 ・中心発問について互いの考えを交流する場面を設定する(視点2)。 ・問い返しの発問等を通して道徳的価値の理解だけでなく、人間理解や他者理解を深めさせる。
見つめる	自己の生き方について見つめさせる。 ・本時の教材を通して考えた価値についてのこれまでの自分の姿に目を向けさせ、道徳ノートやワークシートに書かせることで自己対話をさせる。
つなぐ	学びを振り返り、実生活へ生かそうとする意欲を高めさせる。 ・本時の学習を振り返らせることで、価値について改めて捉えさせ、実践意欲を高める。

- (2) 道徳的価値の自覚を深めさせるための

対話的な学び合いの工夫

- ・友達と考えを交流させることにより、考えを広めたり深めたりさせる。



①インタビューによる

考えの発表(1年)

②互いの顔を見合いながらの

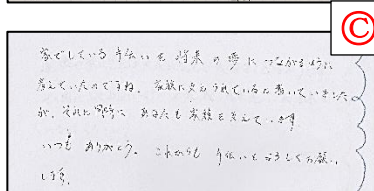
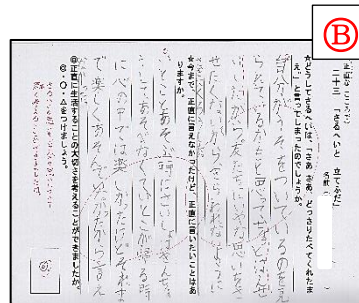
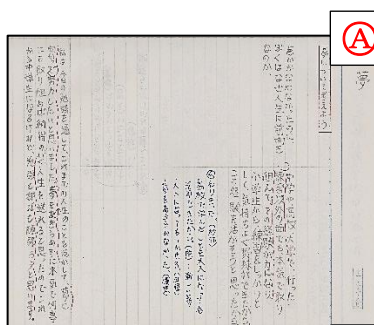
考えの交流(4年)

③道徳ノートの記述を見合う

考えの交流(6年)

- (3) 自己の変容を見つめさせるための評価の工夫

- ・道徳ノートやワークシートへの記述を蓄積することで、価値に対する考え方の変容を見取る。



①中、高学年は道徳ノート

②低学年はワークシート

③道徳ノートへの

保護者からのコメント

3 成果と課題

- 一単位時間における授業スタイルを構築し、教師がそれを意識して授業を進めることで、児童は価値についての自分なりの考えをもって授業に臨むことができた。
- 自分の考えを書かせた上で意見交流をさせることで、道徳的価値についての考えの幅を広げさせることにつながった。
- ▲児童の発言を受け止め、考えを深めさせるための学び合いの在り方について、より吟味する必要がある。